

靴の歴史散歩 ⑥2

皮革産業資料館 常任委員 稲川 實

西村記念室は、千代田区鍛冶町1-6-17合同ビル5階の社団法人・東靴協会（会長矢代裕三）にある。

同階には、日本靴小売商連盟（会長矢代裕三）と、日本靴連盟（会長大沢重見）の事務局も置かれているから、合同ビルは、靴業の城ともよべるところである。

さて肝心の西村記念室だが、その胸像は、記念室ホールの正面に置かれている。胸像は、北村西望門下の昼間弘氏の作といわれる。（写真参照）

胸像台には、以下のような頌徳文が刻まれている。

頌 徳

西村勝三は下総佐倉藩の出。大村益次郎の奨めに依り明治三年わが国において始めて製靴・製革の業を起こした。翁は、明治創業の基礎は実に産業の振興にありとし、耐火煉瓦その他幾多の新事業を創設せられ、特に靴・皮革に最も力を注がれ、斯業今日の隆盛を見るにいたったのは、全く翁の遺業である。

茲に後進相謀って翁の胸像を建て、永くその徳を頌する。

昭和三十九年三月十五日

日本靴連盟会長 宮沢胤勇書

かつて、向島の石像前で、祈念式が行なわれていたように、合同ビルの胸像前でも、毎年靴の記念日（3月15日）には、関連団体の代表が集まり、縁りの人と共に神事による式典が続けられている。

当日、どんな式典が行なわれているのか、たまたま、出席する機会があった平成10年度の、式次第が手元にあるので、これを機にご披露したい。

靴の記念日式典次第（平成10年度）

司会（由東靴協会 副会長 中村久男様

一、開会の辞

日本靴連盟副会長 日本靴卸団体連合会
副会長 荻津昭夫様

一、主催者挨拶

日本靴連盟会長 日本靴卸団体連合会会長
長谷川宏様
日本靴連盟顧問 大塚斌様

日本靴連盟副会長 日本靴小売商連盟会長
矢代裕三様

一、式典

式典は神宮の御祓の儀で始まり、招魂の儀、献饌の儀と進められ、祝詞の奉呈と続く。この後司会者の指名により、順次玉串の奉奠が行なわれる。最後に撤饌の儀と送魂の儀があって式典は終了する。

一、来賓挨拶

㈱ニッカトー取締役相談役（孫）西村明様
日本靴連盟理事 日本皮革産業連合会会長
春日英二様

一、閉会の辞

日本靴工業会会長 牧野勝様
以上が、当日行われた式次第である。
（この項続く）

